

教育と文化

No.114

平成29年7月1日
公益財団法人
愛知教育文化振興会
岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819

心に残る言葉

公益財団法人愛知教育文化振興会 理事長 佐々木尚也



「君はいつもいい顔をしているねえ。」
着物姿で玄関の外まで私を送り、その後にご逝去された。生涯忘れられない言葉である。

心に残っている言葉を振り返ると、思ってもよらぬところを褒めていただいた言葉や、苦しい時に激励してくださった言葉が浮かぶ。これは、単に内容を喜ぶのではなく、その人の私自身に向けた思いをかみしめるからであろう。

「褒められて育つタイプ」という言葉が

流行したが、単純ではない。自分が努力しているところを認めてもらったのではないと、納得できない。思いもよらぬところを褒められた場合は、自分のことをよく知り、尊敬している人でないと、長く心に残らないようである。

心に残る褒め言葉は、自信がもてないときの支えになる。思い悩んでいるのでなく前に進むのだという決断を後押ししてくれる。認めてくださった方に恥じない自分でなくてはならないと思う。

一方で、叱られたり論ざれたりした言葉は、いつもは心の奥底にしまっている。自分に非があるという負い目があり、時折振り返って噛みしめる。これも自分をよく知り、尊敬している方の言葉である。叱られたときに、大いに自分を恥じて、全力で対処したからこそ、ほろ苦さとも懐かしさを感じ振り返るのである。

褒め言葉であれ叱責であれ、心に残る

言葉は、正面から向き合った誠実な関係の中で交わされたものである。高を括らず、ごまかさず、自分にできる精一杯で向き合う人間関係が、言葉の意味を深く重いものにする。

学校教育の場は、言葉によって進められることが多い。指示、説明、発問、意見、感想など、たくさんの言葉があふれている。授業では、学年が上がるにつれて学習内容が複雑になり、一つの言葉をじっくり考える余裕がなくなっている現実がある。また、行事や部活動、生徒指導の場面では、言葉が一方通行になることが多い。

一人一人と向き合える場として、生活記録に朱筆を入れる教師は多いが、その内容はどのくらい心に食い込むものになっているだろう。子どもも教師も時間と鉛筆を使うだけの、形式的な作業に陥ってはいないか。朝や帰りの短学活で、担任はどういう話をしているか。翌日の準備や提出物の確認、学校生活に関する指示に終始してはいないか。人工知能にも話せるような内容ではないか。

子どもと教師をつなぐものは言葉だけではない。だが、言葉を大切にしている教師は、言葉をないがしろにする教師よりもはるかに大きく、深く、広い内容を伝えられる。言葉を大切にしようとするのも、伝えたいことがなかなか伝わらないのが教育の現場である。

受け止める側の目で自分を振り返りな

がら、日々、鍛えた言葉で話しかけたい。その上で、たくさんの子どもの中の一人の心に一言でも残ったならば、これに勝る幸せはない。

尊敬する大好きな先生が褒めてくださったのは、先生と話している嬉しさの表れた顔であった。鏡に映る顔に向かつて、今日出会うすべての人に「いい顔」で向き合おうと呼びかける。

もくじ

巻頭言

心に残る言葉

佐々木尚也

三河教育への提言

「みる」ということ「みえる」ということ
そして「見極める」ということ

今瀬 良江

三河の文化を訪ねて

民衆の自由の獲得と愛に生きた人

村松 愛蔵 山田 敦

三河教育会館の竣工

平成二十九年年度研究発表表校一覧

刊行物の編集とわたし

夏休み日誌・デーリーイングリッシュ

平成二十九年年度版刊行物の紹介

親と子の自然観察ガイド

平成二十八年度最優秀論文

早川さやか

教室の窓辺 伊藤 知夏・神取 敬行

平成二十九年年度学校教育ボランティアグループ助成

学校教育ボランティアグループ活動紹介

行事予定・編集後記

三河教育への提言

「みる」ということ

「みえる」ということ

そして「見極める」ということ

みよし市教育委員会教育長 今瀬 良江



はじめに

「このころ、やっと今瀬先生のおっしゃっていたことがわかるようになりました。以前は、先生の話されていることの意味がわかりませんでした。」

久しぶりに校長として勤務していた小学校に伺い、思い出話に花を咲かせていた折、A先生から言われたことばです。校内の授業研究をリードしていたA先生から、退職して三年も経ってからこのようなことばを聞かされたことに少々驚いた反面、うれしくもありました。少し強引にやりすぎていたのかなという反省とともに……。

長年多くの先生方を見てきて、教師は段階を踏んで、少しずつ少しずつ成長していくものだと感じています。教師が成長するには、日々の学びが重要であり、授業力一つとっても、多くの身に付けなければならぬ要素があります。中でも、私が授業で一番大切にしたいのは、「みる」ということです。

「みる」とは

授業が指導案通りにいかないことはよくあります。むしろほとんどの授業がそうかもしれません。国語科の物語文の授業で、事前に子どもの一人読みを座席表に落として授業の構想を立てて臨んだにもかかわらず、子どもが、事前に書いていた意見と全く違う意見を言ったために、教師が動揺する姿をよく見ます。

「一人読みは動く」と言われた方がいます。子どもたちは、昨日は昨日、今日は今日といった捉えをしているようですし、授業中たくさんのごことに気づき、頭をは

たらかせています。文章を読み直したり、友達の意見を聞いたりして新たな考えをもつのは、素晴らしいことであり、そうであってほしいものです。しかし、想定外の子どもの状況に、瞬時に的確に対応することは容易いことではありません。

「東海国語を学ぶ会」顧問の石井順治先生は「予期していない子どもの状況に対して瞬時に的確に対応することは簡単ではありません。テキストや題材が深くみえていて、その時々の子どもの考えがみえていて、それらの考えと考えのつながりやテキストや題材とのつながりがみえていて、それらがどのようにかわりあつたらどういう学びが生まれてくるかという先がみえているといった『みえる』という教師の知的・感性的判断がなくてはできないことだからです。しかも、それを瞬時に行わなければならないのです。どれだけ難しいことなのでしょうか。」と述べられています。

「みる」「みえる」ということは教師にとって永遠の課題かもしれません。実践としては振り返り、また実践しては振り返ることを繰り返しながら、根気よく、少しずつでもいいから「みる」「みえる」力を鍛えていかなければならないと思うのです。

まずは授業の形から「みる」目を養う

先に述べたA先生は、まさに「みる」ことに心血を注ぎ、「みえる」ようになっていった先生でした。

赴任当時、子どもたちの落ち着きのな

さ、個別の支援を必要とする子どもや保護者への対応で先生方が疲弊しているように感じられました。教室をまわると、教師主導の一言一答式や、子どもの発言や活動よりも教師の話が多い授業も多く見受けられました。

そこで、「学校を変えるにはまずは授業から」と、元刈谷市立衣浦小学校教頭の林知子先生を講師にお招きし、そのお力を借りながら授業改善に取り組みしました。

先生方にはいろいろな個性がありますし、経験や年齢もさまざまです。ある程度学級経営がうまくいっている先生方にとって、指導方法を指摘されることは、これまでの実績を否定されたようで少々苦痛であったかもしれません。子どもは言われたことをきちんとやっているし、こんなに丁寧なワークシートや資料を用意したのに何がいけないのか、そう思われた先生もいたかもしれません。しかし、そういった授業は、しばしば教師が主人公になっており、子どもが主体になっているとはいえないものです。そんな先生方に、まず授業の形を変えることをお願いしました。そのとき、いつもかけたことばは、講師の林知子先生のことばです。もともと、「だまされたと思ってやってみなさい」「とにかくやってみなさい。絶対うまくいくから」でした。

最初に取り組んだのは、アイコンタクト。子ども一人一人と目を合わせ、一人一人とつながってから、教師は話し始めます。これは子どもを「みる」こと

一歩です。子どもの表情をみれば、授業に向かう姿勢、つまり意欲の度合いがみえてきます。

次は、待つこと。市内の学校で取り入れられている前田勝洋先生の「全員がバスに乗る授業」の実践に従い、教師は発問してもすぐに指名せず、多くの子が挙手するまで待ちます。できれば全員。それから授業を始めます。

そして、意見が出て余分なこととは言わないようにします。「なるほど」「そうか」「つなげて」ということばを使い、子どもの意見の選別につながる「他に」は言わないようにしてもらいました。教師が聴くことに徹することで、子どもの考えもみえてくるようになります。

さらには、話し合うときに机を「コの字型」の配置にすることも大切です。教師主導の授業から脱却し、子どもが互いの考えを出し合い、聴き合いながら探究していくためには、互いの顔が見え、だれがどんな様子かを知ることができるコの字型が最適です。グループ活動も折に触れ取り入れるようにしました。ただし、構成人数は四人までとし、男女の座席が市松模様になるようにします。机の隊形を変えるだけで、子ども同士のつながりがみえてきます。

授業の形だけを変えてもと言われる方もみえますが、これだけでも、少しずつ授業が変わりだしたことは確かです。待つことを続けるうちに、挙手が増え、多様な意見が出るようになってきました。自分の意見をみんなが聴いてくれたり、

グループでの活動も取り入れたりすることで子どもたちの参加度も高まってきました。

変わっていく授業の中で、ぜひ、子どものわからなさをお断りすることに心砕いてほしいとお願ひしました。

さらに「みえる」ために

子どもたちの参加度が高まると、次は授業の質を高める段階に入ります。そこで、声をかけたのは教材理解についてです。

例えば、国語科では教材文を書き写して、教師自身が一人読みをすることを勧めました。教材としては何度も扱ったものの、文章を書き写して、じっくり読むなどということをしてきた先生はだれ一人いませんでした。教師自身が一人読みを始めると、これまで見落としていたことばや情景描写、登場人物の心情の変化などに気づき、単元構想が変わります。場面ごとの読み取り方式から、物語の主題に迫るような課題をもとにした単元構想になってきました。

圧巻は、授業後半のさらなる深めの課題です。子どもの反応から、どこに注目させていくか、それこそ瞬時の判断です。冒頭に登場したA先生の授業では、大きな渦が巻くように、子どもたちが考えを出し合い、聴き合う場面に何度も出会いました。A先生の確かな教材理解と、日々子どもの考えを座席表に落としながら一人一人の考えをつかむ努力が、すばらしい授業力を育んだのだと思います。

それは、教材がみえてきたこと、子どもの考えがみえてきたことに他なりません。

同僚性の中で「みる」目を鍛える

すばらしい授業ができるようになったA先生ではありませんが、常にそのような授業ばかりではなかったようです。当時の職員室では、「今日の授業は撃沈してしまいました。」などということばが聞かれることもありました。つまり、子どもの意見の真意がつかめず教師が勝手に引っ張ってしまったり、あるいは話し合いをどう進めたらよいか悩み、思うような授業ができなかったりしたときのことばです。

一人て授業力を高めていくことは、簡単なことではありません。だからこそ、同僚と相談して授業の構想を立てたり、自分の教材解釈を聞いてもらったり、授業を第三者に見てもらったりすることが必要なのです。教師の専門性は経験によってしか深まらないと言われていました。授業実践を一人あたり年二回から三回行い、実践の中で磨き合いました。子どもだけではなく、教師同士も互いに学び合う環境を大切にしました。

A先生の言われた「やっとなかりました。」のことばの奥には、なぜコの字型がよいのか、なぜ教材に精通していなければならないのか、理論と実践が一体化して腑に落ちたからこそのことばであると思います。若い先生方の中には、とにかく見よう見まねで授業をされている方もおられるかと思えます。最初はそれでい

いのです。誠意と情熱をもって実践しているうちに、やっていることの意味や意義がわかり、確かな授業づくりができるようになります。

おわりに

「みる」ことによって「みえる」ようにしていかなくてはならないことは授業だけではありません。教育現場では新学習指導要領への対応はもちろん、いじめ・不登校、地域の教育力の更なる活用等、喫緊の課題は山積しており、教育委員会の責任は重大です。

教育関係のある資料に「ビジョンを示しつつ戦略をもって、学校と教育委員会の関係づくりをすすめる教育長のリーダーシップの発揮が、この度の学習指導要領改訂の理念実現に欠かせない。」などと述べられていれば、なおのことです。今、私の机上には多くの図書や資料が積み上げられています。それらを片端から読みあさっては、理解に努める日々を送っているところです。

眼で聴き耳で視る「眼聴耳視」ということばがあります。「見えないものを見ようとする。聞こえないものを聞こうと努めること」を言うのだそうです。シャワーのように降ってくる教育改革、そして急速に変化する社会の中で、それはどんなことを意味するのか、何のためなのか、今後どうするのかなど、「眼聴耳視」の眼と耳で見極めていかなければと自身を奮い立たせています。

原一田 民衆の自由の獲得と愛に生きた人 村松 愛蔵

田原中部小学校教頭 山田 敦



村松愛蔵 (1857~1939)



愛蔵生誕地 (田原中部小学校内)

生誕地である村松邸は、現在の田原中部小学校の敷地内にあった。村松家の庭木として植えられていたイヌマキは、今も子どもたちを見守っている。

愛蔵は、十二歳の時に藩主の若君三宅康寧の御稽古相手として出仕した。藩校成章館（現在の愛知県立成章高校の前身）では、伊藤鳳山から儒学、鈴木春山（蘭学者）の孫才三・村上定平（西洋砲術家）の子照武から英語を学んだ。十六歳で上京し、東京外国語学校（現東京外国語大学）ロシア語学科に入学した。学校の同級生には、その後日本を代表する学者などの顔ぶれが揃っていたほか、校長には中江兆民が就任するなど、多感な少年愛蔵は、大きな刺激を受けたであろうし、その後、自由民権運動へ傾いた彼の人生に大きな影響を及ぼした。

自由を求めて

明治時代になると、政治の世界では薩摩と長州出身の藩閥専制政府に対する不満が日ごとに増していく。愛国心に燃える者は議会の開設、言論や集会の自由を求め、自由民権運動へと進んだ。その中心となったのが板垣退助で、明治十三年（一八八〇）には国会期成同盟が結成された。田原に帰った愛蔵もしだいに板垣の思想に共鳴し、地元の鈴木孝之助、広中鹿次郎、永瀬誉（建築家永瀬狂三の父）

らとともに田原に政治団体「恒心社」を結成した。そして西三河の内藤魯一らとともに国会開設に向けて署名運動を盛り上げ、各地を遊説した。

明治十四年、愛蔵は「日本憲法草案」を起草し、愛岐日報に発表した。その内容は一院制国会、国民の権利を無制限に保障、税額を問わず国税納付者や婦人戸主や満十八歳以上の男子に選挙権を認めるなど、若き二十五歳の愛蔵が考えた斬新なものであった。そこには、民衆第一とする彼の考えや知識の豊かさを見ることができる。



田原の民権運動の志士たち

この年、愛蔵は、板垣退助が党首となった自由党に入党し、翌十五年には板垣を田原に招いて巴江神社で演説会を催した。一般大衆の啓蒙に努め、その範囲

はじめに

笑みを湛える制服を着た老人。自由民権運動と人々の救済に生きた村松愛蔵を知る人は、もはや出身地田原市においても少なくなつた。世界各地で戦乱、痛ましい事件が起きるなか、人々への愛に生きた愛蔵の生き方を見直す必要がある。

生い立ち

村松愛蔵は安政四年（一八五七）三月

二日、田原藩家老の家に生まれた。田原藩は渥美半島の半分ほどを領有していた一万二千石の小藩である。藩主三宅家は代々家康の「康」の字を拝命する格式の高い家で、愛蔵が生まれる幕末には優秀な人材を多く輩出している。渡辺崋山もその中の一人で、崋山を中心とする藩士は、西洋への関心が深かった。また、いち早く西洋流の軍事組織を取り入れ異国船対策のための海岸防備を行うなど先進的な気風に富んだ藩であった。

は西三河にまで及んだ。田原が「三河の土佐」と呼ばれ、自由民権運動が盛んな町であるだけでなく、三河地方に新しい政治意識を広げた功績は大きい。このように常に時代の先を見つめ行動する愛蔵の気質は、渡辺崋山以来の伝統である。

明治十七年（一八八四）、愛蔵は政府の民権運動に対する取り締まりに反発して直接行動に訴えるため、長野県飯田の自由党員たちと兵を挙げ反乱を起こす計画を立てた。しかし、この企ては事前に発覚し、愛蔵は同志とともに逮捕された。明治十八年、愛蔵は軽禁獄七年の判決を受け、北海道の監獄に送られて服役した。この愛知と長野両県の自由民権派による政府転覆事件は、飯田事件と呼ばれている。明治二十二年（一八八九）、憲法発布の大赦により四年の服役で釈放された愛蔵らは、地元田原で英雄のように迎えられた。当時の民衆は国事犯を英雄視していた。それは国政に対する民衆の不満の大きさを示している。

政治家への道と挫折

出獄後、後藤象二郎の大同団結運動に加わり中山道を遊説した。明治二十三年、板垣退助らが立憲自由党を結成すると入党し、評議員になった。この頃、名古屋の扶桑新聞社（藩校で学んだ鈴木才三経営）の記者となり、時事評論、最新の口

シア情報を紹介した。また、下宿先のキリスト教信者の娘きみと結婚した。

明治二十七年（一八九四）、第三回・第四回の衆議院議員選挙に二度出馬したが、ともに落選。明治二十八年に日清戦争後の状況視察のため韓国に渡り、翌年四月には参謀本部の委嘱を受けてヨーロッパ・アジア視察に出かけ、ロシアで帝政ロシアの内情を見聞した。帰国後の明治三十一年（一八九八）の第五回衆議院選で初当選、以後三回再選を果たし立憲政友会に属して政界の重鎮として活躍した。



壮年期の愛蔵

愛蔵は明治四十二年（一九〇九）の日

糖疑獄事件で不正にお金を受け取った疑いで二十三名の代議士と共に検挙された。この事件は大日本製糖株式会社を不当配当したことに端を発している。会社は窮地を救うために、煙草・樟脳・塩の生産品を専売にしようとして、当時の農政局長を政府連絡のために社長として迎え入れた。そして専売制実現のため主要政党の所属

議員を動かして、議会で砂糖官営法を提案させるために、莫大な運動費を遣った。

このことが発覚したのである。会社重役はもちろん、多数の逮捕者が出て、社長は自殺、また愛蔵をはじめとする政友会の三聖人と呼ばれる議員も逮捕されたことは世間を驚かせた。実際のところ愛蔵は、友人の代議士から融通された資金が、大日本製糖株式会社から出た資金であることは知らなかった。しかし愛蔵は言い訳を一切せず、他の多くの代議士が弁明、控訴、また秘書らに罪を転嫁したのに対し、「私は神の裁判を受けます。人の裁判を受けません。」とし、一番であつさりと服罪した。愛蔵は法律以上の正義・潔白を生活信条としていたが、事件に巻き込まれた自分の行動を恥じ、「国政に参加する資格はない。」と潔く衆議院議員を辞職し、政界からの永久離脱を宣言した。

人を救う道へ

愛蔵は獄中で、妻からの差し入れの聖書を読んだことから、キリスト教に回心した。このことは、服役後、救世軍に入隊するきっかけともなった。救世軍とはイギリスに本部を置き、宗教活動、社会福祉事業、教育事業、医療事業を行うキリスト教団体である。日本の救世軍は明治二十八年に山室軍平らにより始まり、

布教活動、廃娼活動、災害時の支援活動を進めていた。



救世軍時代の愛蔵（右端）

明治四十三年（一九一〇）、愛蔵は救世軍に入隊した。それは、人々を幸せにするために取り組んだ民権運動や政治活動に挫折した彼にとつての唯一の道だったのであろう。この情報はいち早く新聞に取り上げられた。年末のある日、愛蔵は日比谷公園の一角に立ち、年末の慰問慈善鍋の募金運動に従事していた。この日は議会の開院式であり、その前を多く歩いた代議士が通り過ぎる。寄付の声をかける愛蔵を見た代議士たちは「村松は墮落した。」とあざ笑うものもあれば、「救世軍の一兵卒と代議士たると何れが貴き。」

と賞賛する者もいたという。もはや愛蔵は、政治家とは完全に決別し、救世軍の一兵卒としての道を歩み始めたのである。

政治家時代は家庭を顧みず、妻とは長い間別居状態であったが、愛蔵の決意とその活躍に感動した妻きみも明治四十四年に上京し、愛蔵と共に救世軍士官（伝道者）学校に入校した。二人は共通の志を持つことよって再び結ばれたのである。

時には、田原の愛蔵を慕う人たちが、政界への復帰を懇願したが、彼は固く断った。愛蔵がその後田原を訪れなかったのは、田原の人たちへの情に流されないようにするためだった。後日「それですから村松は、最期までただの一回も懐かしの故郷、父祖の眠る田原へ帰らなかつたのです。郷里の方々に捕まるのを恐れたのです。」ときみ夫人は語った。田原で行われた納骨式の際には、きみ夫人は愛蔵の長年の無沙汰をわびたという。それほど愛蔵の決意は固かつたのであろう。



きみ夫人と仲むつまじく（晩年）

大正二年（一九一三）に愛蔵は少校に昇進し、本営で身の上相談を担当するようになった。十五年余りの間に二万八千件以上の身上相談活動を扱い、荒んだ心を救い、多くの人たちを社会に送りだした。

愛蔵は救世軍引退後も、宗教家として多くの人を救う活動を続けたが、昭和十四年（一九三九）四月一日、八十三歳で亡くなった。五月十四日、遺骨は田原中部尋常高等小学校の講堂に到着し、盛大なキリスト教納骨式が行われた。代表として、近藤寿市郎が弔辞を奉読した。寿市郎は田原市の出身で国会議員、豊橋市長に就いた政治家である。また、豊川用水の発案者で、田原市の農業を全国一に導く礎を築いた人物でもある。寿市郎は若いころ自由民権運動に傾倒し、その中心的人物であった愛蔵を尊敬し、選挙活動にも奔走した。

おわりに

飯田事件に見る民権運動で、彼のとつた過激な行動は今日ではとても受け入れられるものではない。しかし、彼の純粋さは、人生の前半においては世界を見据え民衆の自由の獲得に奔走する姿に、後半においては人々を救済する姿に表れている。共通する点は、その目線は常に民衆、しかも立場の弱い人たちに向けられ、愛に満ち溢れているということだ。

愛蔵は三河田原駅西にある城宝寺の村松家の墓所に眠っている。奇しくも渡辺崋山一家の墓所の南に接している。墓石には「村松家累代之墓 昭和十四年四月十一日 村松きみ建之」と刻まれている。



愛蔵の墓（田原市城宝寺）

大正十三年（一九二四）九月、愛蔵が田原中部小学校の後輩に送った言葉がPTA機関誌「家庭と学校」二百四十号（大正十三年十月発刊）に掲載されている。

一、学校と家庭との接近密接を切要とする事。（学校と家庭は連携を密にする）

一、その日その日の時間は空費せざる事。（その日その日の時間を大切にする）

一、明日あり明年ありと思ふ心が大禁物なる事。（明日があると、先送りをする心はいけない）

愛蔵の生誕地である田原中部小学校の子どもたちも、この言葉を胸に刻み育ってきた。人々への愛に満ち溢れた子ども

たちになるよう、愛蔵は見守ってくれているだろう。



愛蔵生誕地とイヌマキの古木

参考・引用文献

『自由民権 村松愛蔵とその予告』

柴田良保 一九八四

『回天の志士 村松愛蔵』

小澤耕一 一九八七

村松愛蔵『田原町史』下巻

小澤耕一 一九七八

『自由民権指導者から救世軍兵士へ 村松愛蔵』

『蔵王』

別所興一 一九九七

『代議士より救世軍士官に 村松愛蔵研究』

河合光治 一九九〇

協力 田原市文化財課課長 増山禎之

三河教育会館の竣工

昭和32年に建設された竜城会館は、増改築を繰り返し、耐震工事なども行い、大切に守り続けられてきました。しかし、年数を経るとともに建物の老朽化が進み、早急に新会館の建設に取り組む必要が生じてきました。

平成24年に「新会館建設準備委員会」を立ち上げ、何度も検討を重ね、様々な方々の協力を得ながら新会館建設の具現化をめざしてきました。平成28年ようやく環境整備が整い、建設に向けての歩みが一気に加速しました。

平成29年3月1日に「三河教育会館」落成式、5月3日に完成式を行いました。本会館が三河の教師、教育関係者、文化団体関係者の集い、語らい、研修する場となり、三河の教育文化のさらなる発展の拠点となることを切望しております。ご利用をお待ちしております。 (問い合わせ TEL:0564-51-4819 愛知教育文化振興会)



2F 会議室

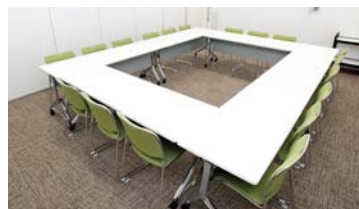
大中小の会議室を備えていますので
会合や催しものにご利用ください。



第1会議室 定員30名



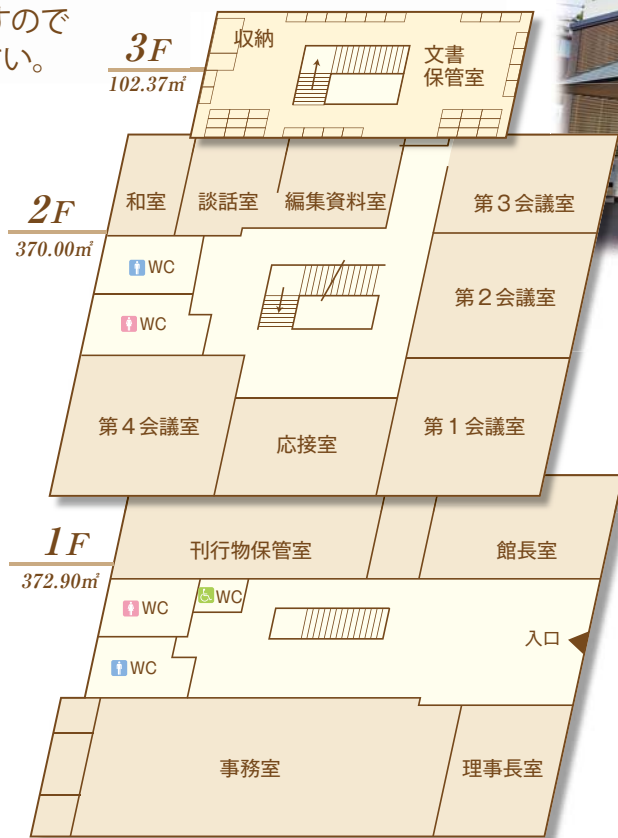
第2会議室 定員30名



第3会議室 定員18名



第4会議室 定員18名



3F 文書保管室



2F 編集資料室



2F 大会議室 (第1・2・3会議室) 定員78名

多くの方が一堂に会する
会議に適しています。



〈附属学校〉

発表年月日	研究主題等	研究期間	学校名
29. 5. 23 (火)	春の授業・協議会公開	29	附属岡崎小
29. 5. 26 (金)	春の授業・協議会公開	29	附属岡崎小
29. 10. 3 (火)	第47回生活教育研究協議会 「独創性を育む」(2年次)	28～32	附属岡崎中
29. 11. 10 (金)	第49回障害児教育研究協議会 「自ら学ぶ子どもの姿を求めて」(3年次)	27～31	附属特別支援
29. 11. 17 (金)	第68回生活教育研究協議会 「自らの意思で判断・決定していく子ども」(5年次)	25～29	附属岡崎小

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
29. 10. 2 (月)	教科指導 (図工、生活、総合)	情操豊かな西部っ子の育成 ～心揺さぶる体験学習とリレーション活動を取り入れた授業を通して～	27～29	市教委	西尾	一色西部小
29. 10. 4 (水)	国語・算数	すべての子供が楽しく参加し、わかる喜びを実感できる授業 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり～	27～29	市教委	岡崎	北野小
29. 10. 4 (水)	へき地教育	ねばり強く、生き生きと学び合う追分っ子の育成 ～リーダー学習を通して、自ら学ぶ力を育てる算数の学習～	28～29	市教委 県へき地研	豊田	追分小
29. 10. 12 (木)	総合的な学習	明和の町が好き、明和の人が好き、明和で生きる自分が好きな子の育成 ～主体的に対話的な学びを繰り返し、深い学びへと進む授業づくりを通して～	28～29	市教委	安城	明和小
29. 10. 19 (木)	学習指導一般	自己肯定感を育み、人とつながって生きる祥南っ子 ～安心感のある学級の中で、すべての子の学びを保障しながら～	28～29	市教委	安城	祥南小
29. 10. 19 (木)	教科指導 (国語科)	生き生きと学び合う福北っ子の育成 ～国語科 見つけ学習の授業実践を中核にして～	27～29	市教委	西尾	福地北部小
29. 10. 20 (金)	国語・算数・理科	全員参加の学びを通して、わかる、できる喜びを感じる子どもの育成 ～授業のユニバーサル化を取り入れた実践～	26～29	市教委	刈谷	双葉小
29. 10. 25 (水)	学習指導 (国語・算数)	自分の思いや考えを表現できる子をめざして ～他者とのかわり合いを通して～	28～29	市教委	知立	知立西小
29. 10. 25 (水)	学習指導	主体的・協働的に課題を追究し、よりよい生き方を求めて学び続ける子の育成 ～「中野っ子のアクティブ・ラーニング」の実践を通して～	27～29	市教委	豊橋	中野小
29. 10. 26 (木)	全教科	どの子も学び合う楽しさを感じ、学んだことを自分のもののできる授業づくり	28～29	市教委	刈谷	亀城小
29. 10. 26 (木)	教科指導 (全教科)	つないで つくる 鶴小の教育 ～つながる学びの授業構造～	27～29	市教委	西尾	鶴城小
29. 10. 26 (木)	教科指導	自ら学び、共に学び合う子ども ～子どもの問いと考えの共有を大切に学習を軸として～	27～29	市教委	豊川	東部小
29. 10. 26 (木)	教科指導	伝え合おう、学び合おう、仲間とともに ～子どもの主体的な学習を大切にし、学びを深める活動をめざして～	27～29	市教委	豊川	長沢小
29. 10. 26 (木)	教科指導	自分の思いをもち、願いに向かって自ら動き出す子の育成 ～身近な「ひと・もの・こと」とかかわり、発信する活動を通して～	27～29	市教委	田原	泉小
29. 10. 26 (木)	全教科	自分の思いを発信できる子 ～地域と積極的に関わる活動を通して～	28～29	市教委	新城	鳳来中部小

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
29. 10. 26 (木)	全教科	豊かに自己表現のできる子どもの育成 ～地域の「ひと、こと、もの(鳳来東の三宝)」を生かした学習の深化を図る～	28～29	市教委	新城	鳳来東小
29. 10. 26 (木)	国語・算数	主体的に生きる子の育成 ～学びをつなぐ力を育てる授業づくり～	28～29	市教委	新城	八名小
29. 10. 26 (木)	教科指導	仲間とつながる授業で学びを深める中小っ子	27～29	市教委	豊川	中部小
29. 10. 27 (金)	教科指導	伝えたい・聞きたい思いをふくらめ のびのびと学び合う子どもの育成 -「聞く」「話す」活動を生かした"わくわく授業"づくり-	28～29	市教委	みよし	南部小
29. 10. 27 (金)	国語	思いを伝え合い、自ら学び続ける子ども ～音読を生かし、ともに読み深める国語科の授業づくり～	28～29	事務教	北設楽	田口小
29. 10. 30 (月)	道徳	豊かな心を持ち、共によりよく生きようとする子の育成 -「考え、議論する道徳授業」を軸として-	27～29	市教委	高浜	高取小
29. 10. 31 (火)	算数	豊かな心をもつとがみっ子を育む ～主体的・対話的な学びを通じた算数科の授業づくり～	27～29	市教委	蒲郡	蒲郡東部小
29. 10. 31 (火)	道徳	自他の違いやよさに気づき、思いやりの心をもてる子 ～心に響き、心を動かす指導の工夫～	27～29	市教委	蒲郡	西浦小
29. 11. 8 (水)	道徳	豊かな心を持ち、21世紀をたくましく生き抜く子どもの育成 -道徳教育の教育課程を中心として-	27～29	市教委	岡崎	竜美丘小
30. 1. 30 (火)	算数	ESDの視点に立ち、算数を楽しむ子供を育む岡崎・連尺教育 -コミュニケーション能力を思考力・実践力へ-		自主	岡崎	連尺小

〈小中連携〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
29. 9. 27 (水)	地域連携 (コミュニティスクール)	地域とともに、地域の風が吹く学校づくり -主体的に行動できる子どもの育成をめざした地域ぐるみの教育-	28～29	市教委	豊田	浄水小 浄水北小 浄水中
29. 11. 8 (水)	学習指導 (小中一貫教育)	基礎基本の習得と思考力・実践力の育成を図る小中一貫教育 -施設分離型・小中一貫教育における豊かな教育活動の創造を通して-	27～29	市教委	豊橋	高豊中 富士見小

〈中学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
29. 10. 18 (水)	全教科	主体的に学び合い高め合う生徒の育成	28～29	市教委	刈谷	刈谷東中
29. 10. 18 (水)	生き方教育	大志を抱き、よりよい生き方を追究する生徒の育成 ～かかわりを大切にした小中9年間を見通した生き方教育の取り組みを通して～	27～29	市教委	豊橋	牟呂中
29. 10. 25 (水)	全教科 特別支援	竜海中学校第11次研究(3年次) チャレンジ竜海式Active Learning -コミュニケーションを取り入れた教科学習を中心に-		自主	岡崎	竜海中
29. 10. 25 (水)	学習指導一般	学びを楽しむ生徒の育成	28～29	市教委	安城	安城北中
29. 10. 26 (木)	教科指導	人が好き 自分が好き 金中が好き ～RSを核にした学校づくり～	27～29	市教委	豊川	金屋中
29. 10. 26 (木)	特別活動	ともに、たくましく、動く -四つの縦割り班を中核とした異学年交流活動の実践を通して-	28～29	市教委	田原	伊良湖岬中
29. 10. 26 (木)	各教科・総合的な 学習の時間・道徳	郷土に愛着を持ち、思いを表現する生徒の育成 ～地域資源を教材として活用した学習活動～	28～29	市教委	新城	八名中
29. 11. 1 (水)	道徳	思いやりのある人間関係を築ける生徒の育成 ～互いに認め合う道徳の授業を通して～	27～29	市教委	碧南	新川中
29. 11. 15 (水)	全教科	能動的に学ぶ生徒の育成 -「見通す、かかわる、振り返る」授業づくり-	27～29	市教委	岡崎	福岡中
29. 11. 17 (金)	全教科 保健	自ら学ぶ生徒を育てる ～主体的・対話的で深い学びをつくる授業を通して～	27～29	市教委	蒲郡	蒲郡中



刊行物とわたし

刊行物「夏休み日誌」とわたし

安城市立桜林小学校 高須 龍河

(H28・5年)



「夏といえば」と考えたとき、小さいころによく行ったカブトムシとりが頭の中によく残っていました。その背景に、夏の花のヒマワリを画面いっぱい描こうと決めました。難しかったのは、構図です。道をまっすぐに描くと立体感が出なかつたので、ななめに描き直しました。ヒマワリの色や形も、大小、様々なものにして、遠くにあるものほど小さくしました。そして、象ちようとなるカブトムシは、思いきって大きく描きました。男の子の服の色選びも工夫しました。

「カブトムシ捕りの様子を描きたい」との思いを強くもっていた龍河くんは、夏らしさをいっそう出すために、背景にヒマワリを描くことにしました。中心となるカブトムシを大胆に大きく描き、それに負けないように、ヒマワリをたくさん描きました。男の子の立つ地面と、空中にいるカブトムシをつなげるために、道を描きました。

下描きを終え、色を塗っていきます。ヒマワリの花の黄色と茎や葉の黄緑色が画面の大半を覆います。その中で男の子が目立つようにするには、服の色を紫色にするのがよいと龍河くんは考えました。また、幻想的な風景に現実感を出すために、ヒマワリの花びらは

もちろん、帽子の細部や髪の毛一本一本までも丁寧に塗っていきました。さらに、空間の広がりを出すために、ヒマワリの塗り方を、手前と奥で変えていきました。

龍河くん自身は、もうこれで完成だと思い、何度も手を止めました。その思いを受け止めつつも、「こうすると、どうなると思う？」と声をかけます。すると、思い描いた作品により近づけるよう、筆をとります。この繰り返しで、この作品が完成しました。子どもへの思いを大切にしつつ、その表現の可能性を広めていく指導が大切だと、改めて感じました。

(指導者 桜林小 早川崇之)

刊行物「デーリーイングリッシュ」

ー今、求められる英語ー

岡崎市立矢作北中学校

デーリーイングリッシュ編集委員 渡邊 康平

小学校五・六年生で、正式な教科として採用されることになり、益々その重要性を問われている「英語科」の授業。喫緊の課題としては、その小学校と中学校の連携をどのように行うかということだろう。小学校での学びを生かした中学校の授業であることが求められる。我々中学校の教員は、コミュニケーション活動を中心として行われてきた小学校の英語活動を、単語の習得や文法の理解などから英語によるコミュニケーションに繋げるという、より体系的な学習が求められる。そのような学習の中には、「書くこと」に重点を置いた学習方法や、多くの問題数をこなすことも必要となる。

デーリーイングリッシュは、そんな学習方法の手助けとなるように編集されている。教科書の内容を基本とし、基本文や重要語句など、その単元に必要とされる学習が一通りできるよう網羅されている。また、教科書に準拠した内容となっているため、定期テスト前の確認や、日々の授業の復習などにも活用できるだろう。「書くこと」と、多くの問題をこなすことに重点が置かれているため、基礎を固める段階で活

用されることを期待している。

また、今年度より復習のページもより充実した内容となっている。これまでの学びの積み重ねが重要となる英語科において、復習のページは必須だと考え、このように変更した。さらに三年生においては、これまでの読み物のページを、「入試対策」のページとして問題を用意した。文章量が多く難易度は高くなっているものの、入試を意識する機会を作ること大切だと考えた。

全ての学年に、「編集委員が選ぶ偉人の言葉」というコーナーがある。本書を使う生徒たちを想像し、その生徒の笑顔を作り出したいという願いをかけて取り組んでいる。デーリーイングリッシュを手にした生徒の目標が叶う手助けとなれば幸いである。英語を駆使し、世界へ羽ばたく子どもたちが育つことを期待している。



親と子の自然観察ガイド 第3集

オールカラーA5判 64ページ 頒価 500円(税込)

これまでの「新刊」の内容から、
すべてを新しく編集しました。

第3集

親と子の 自然観察ガイド



私たちも推薦します!

三河小中学校長会
三河小中学校PTA連絡協議会

① 三河の自然を探そう



写真が多く見やすいです。

本文の漢字にはすべてふりがながながついています。

詳しい解説があります。



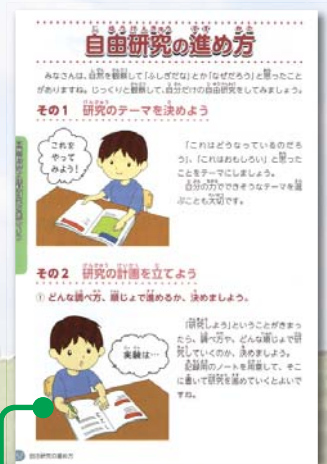
アクセスの方法もバッチリです。

② 三河にある博物館や科学館を訪ねよう



最新のデータが載っています。

③ 自然観察や理科研究を進めよう



自由研究もバッチリです。

「親と子の自然観察ガイド 第3集」を刊行いたしました。三河の自然を観察したり、自由研究を進めたりするときに役立つと、三河小中学校長会と三河小中学校PTA連絡協議会からの推薦を頂きました。第II期注文にて、注文を集約いたしました。夏休みを間近に控え、再度、保護者の皆様にお薦めください。注文は(公財)愛知教育文化振興会(☎0564-51-4819)までお願いします。

また、新しい事業として、自然体験活動を本年度から実施します。小学生とその保護者を対象とした「親子で楽しむ ネイチャーウォッチング」を三河の各地で3回開催します。啓発用のポスター等は4月初めに各小学校に配付いたしました。今後、本紙面にてその活動の様子等をお知らせいたします。

親子で楽しむ

ネイチャーウォッチング

三河の自然をウォッチング

1

「めざせ とんぼ博士」

～親子でトンボ探り体験～

平成29年6月18日(日)

岡崎市少年自然の家集合(岡崎市須洞町)

●受付期間 平成29年5月8日(月)～5月22日(月)

2

「渡り鳥に会いに行こう」

～親子でバードウォッチング～

平成29年9月23日(土)

汐川河口(田原市緑が浜公園集合)

●受付期間 平成29年8月14日(月)～8月28日(月)

3

「ちょっとオリオンをのぞいてみよう」

～親子で楽しむ天体教室～

平成30年2月3日(土)

岡崎市少年自然の家集合(岡崎市須洞町)

●受付期間 平成29年12月22日(金)～平成30年1月9日(火)



古典をすすんで読み、目標をもって

主体的に学ぶ生徒の育成をめざして

～中学国語古典学習の実践を通して～

西尾市立吉良中学校 教諭 早川 さやか



一 はじめに

本研究は、平成二十四年度に小学五年生で実践した古典教材『枕草子』の実践を起点としたものである。小学生たちは、「昔の人は今と違って、手で触れられないもの（自然）をいって言っているね。」と素直に感動し、古典の奥深さに気づくことができた。次年度、中学校に転動すると、「古典をなぜ勉強するかわからない。」と、古典から離れようとする生徒たちに出会った。そんな生徒たちが古典を柔軟に受け止め、親しみをもって学ぶことができるようになるにはどうしたらよいか、考えるようになった。古典学習においても言葉を根拠に読み取

り、仲間との関わり合いを楽しむ生徒の育成をねらい、協働の学びを意識して実践に取り組んだ。

二 研究の概要

(一) 目ざす生徒像

- ・学習意欲を持続し、目標をもって古典を主体的に学ぶことができる生徒
- ・関わり合いを通して、自分の読みをさらに深めていくことのできる生徒

(二) 本研究の経緯

◇一年次は、二年生の生徒を対象として実践を行った。「古典に親しみをもって主体的に学ぶ」に重点を置き、「平家物語『扇の的』」を題材として、次の手法を用いて研究を進めた。

- ①生徒の意識の流れに沿った単元構想
- ②視覚・聴覚に訴える学習活動の設定
- ③仲間と関わり合う場の設定

古典学習の目標は、「作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界を楽しむこと」と「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを

想像すること」である。それを生徒たちにも明示し、共通の土台に乗せるために歴史的背景の補足をした。これにより、苦手意識を抱いていた生徒も見通しをもって学習に取り組むことができた。また、様々な形態で音読させたり、場面絵を使って叙述を視覚的にとらえさせたりしたことで、原文を生き生きと読み、作品の世界を豊かに想像できるようになった。読み取りの段階では、一人読みを基にペア対話や仲間読みを行い、関わり合いを通して考えを再構築させた。生徒は自らの変容に気づき、自信をもって学習に取り組んだ。一方、発言の場面で教師対生徒の一对一のやりとりになりがちなことに課題を感じた。

◇二年次は、三年生を対象とし、「自分の考えを明確にもち、自己を認めながら関わり合いを楽しむ」に重点を置いて、「おくのほそ道『夏草』」を題材として、実践を行った。手だては以下である。

- ①根拠をもって読む指導
- ②授業以外での関わり場の設定
- ③生徒の学びを捉え、認める教師支援

本文の書かれたプリントに線を引いたり、意見を書き込んだりするノート作りをさせた。そうすることで、生徒たちは常に本文を意識し、思い付きではなく、根拠を示して自分の考えをもてるようになった。また、学活などでも適宜話し合い活動を取り入れ、時には教師が切り返すモデルとなることで、生徒どうしの主体的で柔軟な意見交流ができるようになる

り、授業の中でも生かされるようになった。さらに、一人読みや授業日記の朱書きにもこだわった。その結果、個々の変容を認めることはもちろん、次時の仲間読みにつながる考えを捉え、意図的指名などで計画的に生徒の意見を引き出し、全体の読みを深める授業を展開することができた。教師支援の大切さに改めて気づいた。しかし、「古典に親しむ姿」の検証が不十分であることに課題を感じた。

(三) 研究の内容◇三年次

再び二年生を対象として、「古典をすすんで読み、目標をもって主体的に学ぶ」に重点を置き、以下の手だてを講じて実践に取り組んだ。

手だて① どんな生徒でも古典の世界に引き込むためのICT活用

本単元『平家物語』は、鮮やかな色彩表現や細かな描写から状況が視覚的に捉えやすい。さらに、武士の価値観がはっきりと描かれており、登場人物の思いに寄り添って内容を読み取ることができる題材である。想像を膨らませて読むためには、物語の場面を正しく理解させ、その場にいるかのように実感を伴って読み取らせる工夫が必要であると考えた。そこで、視聴覚資料（ICT）を活用したモニターに映すだけで、取り上げたいものが生徒に一齐にわかりやすく伝わる。つまり、生徒全員が同じ視点と共通の課題意識をもつことが可能になった。ICT活用の利点は、同じ学習を繰り返し行ったり、立ち止まって考えたりできる

ところにもある。本単元では「NHK for School」というインターネットポータルサイトの動画視聴やデジタル教科書で場面絵や本文を拡大して提示するなどの形で、デジタル教材を利用した。本来の形である教科書と板書は基本として残り、要所にデジタル教材を取り入れていくことで、生徒の理解は深まった。アナログとデジタルを融合した授業を行っていけば、生徒は教科書や黒板とにらめっこの状態から脱却できる。特に低位の生徒にとってはなおさらであるということがわかった。



<大型モニターでの資料提示>

手だて② みんなで考えれば理解が深まる。関わり合いを増やす工夫。抽出生徒Aは、周りと自分の考えが違ふと不安を感じ、学習に対して受動的になってしまふ。そんな生徒Aには、自分に異なる考えに触れ、もまれる経験を積

ませていけば、授業でも主体的に考えを発信できるようになると考えた。本校では、「吉良中トーク」という話し合い活動を行っている。十分間でグループ討論と全体での発表、まとめを行う簡単な活動であるが、生徒たちは自分の考えを話すだけでなく、仲間の考えも受け入れて取り回しをすることができるようになった。授業でもその力を生かすべく、仲間読みの場でも対話を取り入れた。「与一が義経の命令を受けて平家の男を射倒した行動は『あり』か『なし』か。」という課題を設定し、生徒たちに意見交流させた。生徒Aはまず「なし」と答えたが、その中には「殺すのは少しおかしい」という考えもあり、揺れていたことが見取れた。まず自分主体で考えるので、予想通りの結果であった。多数決をとると、七割の生徒が生徒Aと同じ「なし」の考えをもっていた。そこで、切り返し発問「武士の世界だったらどうか。」を投げかけ、一人読みと対話の時間を設けた。生徒Aはペア対話をし、さらに机間巡視する教師を呼んで、「先生、これって自分が武士だったらって考えればいいよね。」と自分の視点を確認した。その後、「あり」と答えを改めた。その理由には、「上からの命令は絶対」「平家は遊びでも源氏は戦い」という既習事項を踏まえた根拠があり、友達や教師との対話を通して、柔軟に自分の考えを変えることができた。

手だて③ 自分の成長に気づかせ、自己有用感や学ぶ喜びにつなげるノート指導

生徒にとつての学びの足跡はノートに表れると考えた。生徒Aは、最後の授業『弓流し』後の日記で、義経や与一といった古人の考え方にふれ、自分と比較しながら武士の世界について感想をまとめた。また、古典学習の目標として示してきた音読や現代と昔（古人）とのものの見方を考えて読むことについて、自己評価をさせてきた。常に目標を意識させ、課題を明らかにして学習に取り組ませることで、生徒Aは苦手だった発言に前向きになった自己の変容に気づき、成長を認められるまでに至った。また、受け身の学習姿勢は感じられず、自分の考えをすすんで記せるようになったこともわかる。書くことで生徒Aは考えを整理し、

もし武士の世界に生きていたら、義経みたいに弓を拾うと思います。自分のせいで仲間が悪く言われるのは嫌だからです。でも与一が男を殺してしまったのはまだ納得がいかなくて迷っています。命令には逆らえない武士の世界は今よりも生きにくいです。『平家物語』を勉強して、いつもより発言ができて、自分でもびっくりです！音読もすらすらできていると思うし、登場人物の気持ちもちゃんと考えられてよかったです。

それが活発な発言に結びついた。だが、ノートに書くことによる学習効果はそれだけではない。生徒自身が自己の変容を視覚的に捉えられる点にもある。ペア対話などから他の意見を参考にしたり、仲間読みの中で一人読みを修正・加筆したりして、生徒Aをはじめ多くの生徒が自分の考えを深めてきた。そして、教師はその一つ一つに朱書きをした。朱書きは、考えを引き出したり、個々の変容を認めてほめたりすることができる。生徒たちはノートが返ってくると自分のものを読んだり、互いのノートをのぞき込んだりしていた。これは、生徒たちが共に学ぶ喜びを感じ、自己を認める姿だと捉える。

三 おわりに

三年間の研究実践を通して、古典学習への苦手意識を軽減し、関わり合うことでより主体的に学習に取り組むことができる生徒の姿を追求してきた。その中で、生徒の主体性を引き出すには教師がまずこだわりをもって授業を楽しむこと、生徒の実態に合った学習支援（ICTを含む）の方法を探っていくこと、授業だけでなく日常的に見通しをもって生徒を鍛えることが必要であるとわかった。

国語科は言語活動の要となる教科である。この実践で学んだことを生かし、また、小学校との系統性も視野に入れながら、他教科や特別活動などにも広げることのできる実践を考え、日々の教育活動に取り組んでいきたい。

豊かに感じ 表現する子

蒲都市立蒲郡北部小学校

伊藤 知夏

「四年二組は、どんなクラス？」

という発問で始まった『言葉でつくろう！ 四の二リズムアンサンブル』の授業。四人グループで四の二らしさを表現する『あかるい』『たのしい』などの四文字の言葉を選んでリズムにのせ、組み合わせ方を話し合いながら、十二小節目のリズムアンサンブルをつくっていく。

「全部」「じゃ、つまんないんじゃない？」

「一回、やってみればいい。」

「ううむ。」

「全部」「♪♪♪♪ ♪♪♪♪」にしたらどう？」

「ここが重なるようにしようよ。」

「うん、いいね。できた、できた！」

音楽を自分たちでつくるという面白さ、リズムを合わせる心地よさを体で感じる子どもたち。

「全員で同じリズムを重ねると、本当に『たのしい』って感じになるよ。」

と、音楽の仕組みの効果を考え、友だちと意見を共有しながら方向性を探っていく。夢中になって音と向き合う時間があったという間に過ぎていった。

試行錯誤の末に、自分たちの納得のいくものができる。子どもたちは何度も

何度も繰り返し演奏をする。繰り返すたびに声が大きくなるのは、自分たちの作品に対する自信と、友だちと心を合わせることの楽しさを味わう姿である。演奏が終わると笑い声があり、感想を伝え合う。他のグループと聴き合えば、自然と拍手が沸き起こる。友だちのよさを素直に認める空気が生まれていく。

「音楽」には、答えがない。だから子どもたちは試行錯誤によって、より楽しい音楽、より自分の思いにぴったり合う表現を追究していくことができる。音楽づくりの授業は、音楽が得意な子ども、そうでない子ども、一緒に感じ、楽しみ、自分の思いをぶつけることができる。いつもは友だちとうまくコミュニケーションがとれない子ども、いつしか仲間の輪の中に溶け込んでいる。

今日も私の教室

には「音楽、大好き！」の気持ちで体いっぱい感じながら歌ったり、リズムを取ったりする子どもたちの笑顔があふれている。



教室の窓辺

環境を整える

西尾市立鶴城中学校

神取 敬行

「このやろう。」

「なにするんだ。」

本校に赴任して四年目、一学期のクラスの様子である。毎日、休み時間、授業関係なく、クラスで喧嘩が起きる日が続いた。週に喧嘩がない日が三日あれば、「今週は勝ち越せましたね。」

と言われるほどだった。当然、クラス全体も落ち着かない雰囲気になった。

何とかしたいと思い、先輩の先生方に話を聞くと、ある先生に、以前担任をしていたとき、毎日教室の掃除をしていたことを教えていただいた。尊敬できる先輩がやっていることなら、自分もまねして教室掃除をやってみようと思った。

早速、暗くなった教室へ行ってみると、小さなゴミがたくさん落ちていることに気がつき、恥ずかしくなった。掃いてみると、案の定たくさんのはこりを集めることができた。もちろん、一日で何か変化するわけではなかったが、気分は良かった。それから毎日続け、気づくと、一日の生徒の様子を思い浮かべて掃いていた。

そうした中で一学期も終わり、夏休みの終盤、応援合戦の練習が始まった。私

は、きつと今までのように喧嘩の連続になると予想していた。しかし、

「もう一回今のところをやってみよう。」と、毎日喧嘩をしていた生徒が、団長として声を張り上げて指示する姿があった。それに喧嘩相手の生徒が必死に応えようと、腰を落として素早く動く姿があった。そこにはいがみ合う表情は全く見られず、生き生きとした表情だった。本番で優秀賞を獲得し、涙を流して喜び合う生徒の姿は、今でも頭に焼き付いている。

体育大会後も時々喧嘩が起きるが、全体として落ち着いた雰囲気になっていた。これは、生徒たちが成長したことと他の先生方にも助けていただいたおかげだと思っている。それでも、毎日教室環境を整えたことも少しは効果があったのではないかと思いたい。

本校は、千人を超える大規模校である。様々な行事で発揮するパワーはとても迫力がある。そうした行事で得られる大きな感動は、日々の落ち着いた雰囲気の上になり立っているのではないだろうか。これからも日々の平穏な環境を整えて、生徒の成長を見守っていききたい。



平成二十九年 学校教育ボランティアグループ助成

読書活動グループ助成対象団体

地区	団体の名称	代表者	主な活動場所
附属	愛知教育大学附属岡崎小学校	奥瀬 京子	愛知教育大学附属岡崎小学校
岡崎	ももちゃんの会	増田 貴代	岩津小学校
岡崎	るるの会	藤田千恵美	六ツ美中部小
岡崎	ぼかぼかクラブ	杉浦 雪枝	奥殿小学校・岩松保育園
岡崎	矢作北小学校	館田ゆかり	矢作北小学校
岡崎	読み聞かせボランティア	笑本の会	
碧南	大浜小学校図書ボランティア	石川 幸世	大浜小学校
刈谷	おたまじゃくしの会	長谷川絵美子	小垣江小学校
刈谷	図書ボランティア	小坂麻衣子	富士松南小学校
豊田	アリスの森	浅野亜津子	広川台小学校
豊田	足助中学校読み語りボランティア	柴田 睦	足助中学校
豊田	美里読書ボランティア	山下 晃平	美里中学校
豊田	「そらまめくん」読み聞かせボランティア	大矢 則子	山之手小学校
豊田	みちくさ	吉村 智美	東保見小学校
豊田	ひよっこくらぶ	安藤佳子	小原中部小
安城	三河安城小学校読み聞かせボランティア	段代千嘉子	三河安城小学校
安城	おはなしわの会	飯田千栄美	志貴小学校
安城	安城北部小	下平 朱美	安城北部小学校
西尾	西野町小学校図書ボランティア	澤田 理絵	西野町小学校
西尾	西尾市立鶴城小学校図書ボランティア	村松ゆかり	鶴城小学校
西尾	八ツ面小学校図書ボランティア	加藤 智子	八ツ面小学校
知立	読み聞かせボランティア	岡田めぐみ	猿渡小学校
高浜	みらくる	中入地誓子	高浜小学校
高浜	読み語りボランティア「童夢」	平山 啓子	北中学校
幸田	読み聞かせボランティア「よせなべ」	長谷川三重子	幸田小学校
豊橋	読み聞かせボランティア	佐原 筆子	谷川小学校
豊橋	花田小学校	橋口 貴子	花田小学校
豊橋	図書館ボランティア	新川 倫子	芦原小学校
豊橋	なのはな会	森 智子	西郷小学校区
豊川	中部小学校図書ボランティア	遠藤かおり	中部小学校
豊川	代田小学校図書ボランティア	片桐早奈美	代田小学校

読書活動以外のグループ助成対象団体

地区	団体の名称	代表者	主な活動場所
豊川	おはなしたんけんたい	杉山 温子	東部小学校
蒲郡	お話し好き太郎	杉江 恵子	西部小学校・中部中学校
蒲郡	中央小学校読み聞かせグループ	尾崎 由佳	中央小学校
新城	作手小学校	瀨本なお美	作手小学校
新城	ほんよみたい	太田 幸代	作手小学校
田原	おはなし手のひらの会	恩田 紀子	新城小学校
田原	おはなし手のひらの会	小塚 園子	福江小学校
田原	まつぼっくりの会	木戸 日和	福江小学校
田原	まつぼっくりの会	木村 真代	泉小学校
北設楽	田口読み聞かせの会	伊吹 明美	田口小学校
北設楽	名倉読み聞かせの会	松崎 章子	名倉小学校
附属	愛知教育大学 学生ボランティア	箱田 沙菜	愛知教育大学附属特別支援学校
岡崎	ちゅらぼ	萩原 新	六ツ美中部小学校
岡崎	竜南いのち守り隊	内田 修平	竜南中学校区
碧南	学校・地域協議会	荻谷 賢治	中央小学校区
刈谷	東刈谷小 親父の会	家田 清一	東刈谷小学校
豊田	若西ボランティアの会	長谷部雅子	若西小学校
豊田	おやじの会	田中 収	根川小学校
安城	安城西中 図書ボランティア	渡邊 由香	安城西中学校
西尾	はず「おやじたあの会」	山崎 豊	幡豆中・幡豆小・東幡豆小
知立	知立西小学校	下林 史宜	知立西小学校区
高浜	たかとり応援隊	中根 忠義	高取小学校
高浜	たかとり応援隊	土屋 琴江	北部小学校区
みよし	北部小スクールガード	山崎 吉裕	荻谷小学校
幸田	おきやっ子・おやじの会	山田雅佳子	天伯小学校
豊橋	天伯小環境整備ボランティア	神田 昭造	嵩山小学校区
豊橋	嵩山ふれあいクラブ	酒井 敬仁	東部中学校
豊川	東部中学校おやじの会	小林 春代	中部中学校
蒲郡	防災塾	戸鹿島なほ子	舟着小学校
新城	菖蒲の会	清田 匡章	中山小学校区
田原	A S T C 隊員中山中山班	伊藤志げ美	豊根村民体育館
北設楽	源流怒涛太鼓		

学校教育ボランティアグループ活動紹介

心豊かな子どもたちを

〔蒲郡市立形原北小学校〕

金澤ヒューマン文庫を愛し守る会

リーディングキャラバン

形原北小学校の子どもたちは本が大好きです。形原北小学校では、ブックパトナー、図書ボランティア、リーディングキャラバンが、それぞれの立場で子どもたちの読書活動を支えてくださっています。その中で、読み聞かせを中心に活動をしているのが、リーディングキャラバンです。

◆常時活動

毎月第三水曜日に、一年生から三年生の子どもたちに、読み聞かせをしていただきます。

朝、八時二十五分から八時四十分までの読み聞かせの時間は、子どもたちが落ち着ける大切な時間です。思いつきり笑ったり、時には、涙を流したり、優しい気持ちになったりして、絵本の世界を旅することが出来ます。特に運動会や学芸会シーズンの忙し



い時期、ほっとできる読み聞かせの時間は、子どもたちにとっても、教師にとっても、貴重な時間です。

◆学芸会の演技指導

学芸会の季節には、子どもたちも先生方も心をつ一つにして、よりよい劇をみんなに観ていただくことが出来ます。どうすればもっとよくすることが出来るのか、担任と一緒に演技指導や相談のつてさせていただきます。

◆サマースクール

夏休みには、絵本と紙芝居の読み聞かせをしていただきます。

低学年中心ですが、保護者も、高学年の子どもたちも、高学年図書室で、ゆったりと大型絵本、大型手作り紙芝居を楽しみました。特に大型紙芝居は、迫力満点です。「うまかたどんと子だぬきポン」は、優しい子だぬきポンが一生懸命働くお話。「たべられたやまんば」は、恐ろしい山姥のお話。「形原地震」は、形原に起こった大地震のお話。金澤嘉一先生の著書「対馬丸」の紙芝居からは、平和の尊さを学びました。

今後、読書活動を通して、心豊かな子どもたちを育てていきます。



〔蒲郡市立形原北小学校教頭 鈴木真理〕

行事予定(七月～十二月)

七月 一日(土)

「教育と文化」一一四号発行

七月 十日(月)

個人研究助成・団体研究助成・学校教育ボランティア助成交付開始

七月 十一日(火)

夏休み日誌使用報告締切

八月 三十一日(木)

個人研究助成(三年次) 研究報告締切

九月 十一日(月)

算数の友(下) 使用報告締切

九月 十二日(火)～十四日(木)

かきぞめ手本・冬休み日誌注文

九月 十五日(金)

第二回理事会

十月 十一日(水)

第二回文振郡市正副代表者会

十月 十八日(水)

第二回文振郡市事務担当者会

十月 二十四日(火)

消防訓練・館内大掃除

十月 下旬

刊行物郡市説明会開始

十月 二十八日(土)

創立六十周年記念祝賀会

十一月 一日(水)

「教育と文化」一一五号発行

十一月 三十日(木)

「刊行物モニター研究調査」編集委員会
会の「反省・申し送り事項」報告締切

編集後記

◇七月となり半夏生が庭先の緑に映える季節となりました。教育情報誌「教育と文化」一一四号をお届けいたします。玉稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

◇みよし市教育委員会教育長今瀬良江様からは、授業力向上のための教師の営みの深さを「みる」「みえる」を通して具体的に示唆をいただきました。

◇山田敦様には、深いご造詣により郷土の偉人「民衆の自由の獲得と愛に生きた人 村松愛蔵」をご紹介いただきました。

◇平成三十年度版の編集作業が始まりました。本年度も引き続き「三河」をキーワードに独自性のある刊行物をめざします。さらに、「基礎的・基本的な知識の習得」とともに「活用力・応用力の向上」についても引き続き、検討・重点化を図っていきたく考えています。
(編集部)

〔平成二十九年度の業務組織〕

顧問	青木 宏氏
理事長	佐々木尚也
副理事長	白井 博司
常務理事	羽田 道生・鈴木 修
事務局長	鈴木 栄二
総務部	金原 宏・松井 仁志
編集部	犬塚 尊夫・河合 智仁
業務部	河合 伸樹・伊藤 雅朗
経理部	本多麻紀子・水井 佳子
事務員	福井 基明・天野 広子
	牧 富代
	深津 理絵